第二十五章　形容詞の羅列

政治家や官僚の言葉はボヤーとした表現が多い。すべてが形容詞の所為ではないが、たとえば「雲一つない青空」とは言わない。隣町に行けば雲があるかも知れないので「爽やかな青空が広がっています」と言う。晴れていれば「爽やか」だから誰が聞いても納得する。まず青空を見て気分を害する者はいない。差し障りがない。この「差し障りがない」というのが政治家たちにとってすべてなのだ。

「女性が多いと会議が長くなる」と発言してオリパラ委員会の会長を棒に振った大物政治家がいた。

「女性が多い方が様々な意見が出ていい。でも徹夜で会議はできないので一回三時間として五回まで。その後は意見をまとめるための会合を一回だけ開く。このようなルールはいかがですか」

総理まで経験した人物がこのように数字できちんと示した提案をなぜしなかったのだろう？だから一年で総理の首をはねられたのだろう。

山本の話に田中も大家も首を縦に振る。

＊

「しっかりと」

それこそ「しっかりしろ」

「緊張感を持って」

今まで緊張感を持たずに適当にしていたのかと言いたくなる。最近ではこの言葉を使いすぎたので「高い緊張感」などとさらに形容詞を上乗せする。

「危機感を持って」

余り使いすぎると軽くなる。いわゆるオオカミ少年化。

「スピード感を持って」

アピールしているつもりだろうが誰も信じてはいない。「緊張感を持って」「危機感を持って」との合わせ技が多い。

「積極的に」

それまで何もしていなかったのをごまかすために使う。

「明確な目標を」

数値で示すと後で何を言われるのか分からないのでぼかすために使う。

「強化したい」

できないと言えないときに使う弱気な言い訳。

「真摯に受け止める」

いつもいい加減なことを認める言葉。反省を込めているが上滑りしている。

「ていねいに説明」

こんなセリフを出さざるを得ないほど何も知らせずに、あるいは知られたくないので秘密裏にしてきたことを謝罪せずに取り繕う言葉。

「躊躇することなく」

たいした効果は上がらないが、さも効果があるように見せかけるためにこう言うが、結局躊躇してしまう。

「先手先手で」

後手後手なのに未来志向の言葉に置き換えてごまかす。

「期限ありきではなく」

期限を設けると縛られるので。

「数字ありきではなく」

数字が一人歩きするのを防ぐため。「期限有りきではなく」と同じで要は自信がない。

「毅然として」

わざわざ言うまでもない言葉。

「痛恨の極み」

国民にとって「痛恨」だが政府も共有しているように見せかけるセリフ。本当にそう思って

いるのか怪しい。

「懸念する」

懸念だけで終わらせることなく最善の対策を打ってほしい。

「より早く」

まだ実行していないのにあたかも実行しているかのように見せかけるために使う言葉。

「適切に」

これまでのいい加減さを検証せずに、つまり反省を避けるために使う言葉。

「予断を許さない」

不都合なことが起こると「想定外」と片付けるために予防線を張る言葉。いくらでも予断してあらゆる状況に対処すべきなのにはじめから放棄している。

「前倒しで」

対応が遅れていることを棚上げして特別扱いすると強調して責任を回避する言葉。

「できるだけ」

できないこともあるので。

「関係各省庁と協議して」

どのように言い訳するかを協議する。責任の所在を曖昧にする。

「寄り添いながら」

介護士じゃあるまいし。

「遺憾なこと」

アカンと言えないので。

「諸般の事情を総合勘案して」

決断を先送りするための前口上。本当にこれができる人はよほどの人格者。「あの人が言うのなら」という強力な信頼感が必要。

「あらゆる選択肢を排除せずに」

様々な状況に対処する手段を多く持っていると見せかける言葉。選択肢が少ない場合に使う。

「万全に」

万全にできっこないのにシャーシャーと言う。

「早期に」「迅速に」

スピード感を持ってと言うセリフを言いすぎたので日本語で言い直す。

「不要不急」

死を覚悟してやる必要がある場合を除いてと言うぐらいの意味で使うべきだが、いつの間にか個人の判断に委ねられるとされた。

「全力で」

日頃力適当にしているので。でも急に全力を出すと倒れるかも知れないのですぐ手を抜く。

「着実に」
あえて言わなくても公務は着実に実行されているはずなのにそうではないから。
「引き続き」
結論が出せない、あるいは出さないときの逃げ口上。果てしなく延長戦が続く。また、さらなる予算を要求するための手段にも使われる。
「厳正に」
厳しく正しくなんてできないけれどこの看板を降ろすと自分たちが厳正に処分されるので。
「見極める」
よく分からないとは言えないので。時間稼ぎの言葉。
「調整中」
サボっているわけではないと言い訳しつつ、どのように言い訳するか考えている最中と言うこと。
「後押しする」
前から押すと妨害になるから。
「先導する」
方針は示すが引っ張らない。後押しだけにとどめる。